

in 山梨県立考古博物館

7/17^土

→ 8/22^日

2021

9:00-17:00 (入館は16:30まで)

休館日-月曜日 (8月9日は開館)

Yamanashi meets Shizuoka

しずおかの

ふじのくに文化財交流展

弥生世界

バイ・ふじのくに文化財交流事業
主催：山梨県・静岡県



山梨が誇る縄文、静岡に栄えた弥生——
ともに富士山を擁する『ふじのくに』で
ある両県を代表する、日本文化の源流に
係る文化財の交換展示が始まる。

7/1~
要予約

8/1^日
13:30~15:00
記念講演会
『しずおかの弥生文化』
講師：篠原 和大 氏
【静岡大学教授】
in 風土記の丘研修センター

山梨県開催

7/18^日 7/25^日

予約不要

ワークショップ
10:00~15:00

7/18^日 9
ギャラリートーク
10:30~14:30~

8/1^日 9
ギャラリートーク
10:30~15:30~

in 山梨県立考古博物館
【静岡県職員実施】

観覧無料
Admission Free

山梨県立考古博物館

Yamanashi Pref. Archaeological Museum

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882
<https://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

企画展HP



静岡県開催

8/25^水 → 9/20^月 (祝)
『やまなしの縄文世界』
in 静岡県富士山世界遺産センター
『サテライトパネル展』
in 静岡県庁別館 21階富士山展望ロビー

<画像左から> 静岡県指定文化財 銅鐸 西の谷遺跡・弥生土器集会所 川谷遺跡・中手形遺跡など国際品以外も含む、【静岡県埋蔵文化財センター蔵】
山梨県指定文化財 人面装束付土器 海邊前C遺跡 Photo by Ogawa 【山梨県立考古博物館蔵】・勾玉 北神馬土器遺跡【静岡県埋蔵文化財センター蔵】

私たちの主食は米ですが、その米づくりである稲作は、縄文時代の終わり頃から弥生時代はじめに大陸から伝わり、全国各地に広がりました。

静岡県内で稲作が盛んに行われるようになるのは、今から約2,200年前の弥生時代中期中葉になります。稲作に必要な水を確保しやすい低地に水田をつくり、周辺の微高地に住居などを構えて暮らしました。さらに、この稲作とともに、新たな土器の特徴や木製の農耕具、石製や鉄製の工具、青銅製の銅鐸などが弥生時代に登場します。

静岡県域には海に面した平野をもつ地域が東西に林立しており、特別史跡である静岡市登呂遺跡をはじめ、各地域に弥生時代の集落跡が多く確認されています。東海道ルートによる交流によって新たな文化と技術が伝わり、定着したことが明らかになっています。さらに静岡県域では、こうした中で日本列島の東西の特徴が交錯する様相も認められます。



静岡市登呂遺跡の復元された水田、祭殿建物と住居



人面付土器、シカの絵画土器片 (浜松市角江遺跡出土)



鳥形土器 (浜松市将監名遺跡出土)



1 弥生時代の芸術

弥生時代にも縄文時代と同じように造形、絵画、音といった芸術に関わる出土品がありますが、新たな稲作と金属の登場による弥生時代ならではの特徴がうかがえます。

1-1 芸術～造形と絵画～

弥生時代には土器に人面やトリなどを模した造形があるほか、線刻で描かれた絵画があります。

浜松市角江遺跡出土の人面には入れ墨の表現があり、当時の風習がわかります。シカやトリは、弥生土器や銅鐸の絵画では多く登場する動物であり、弥生時代の人々にとって大切な存在であったと考えられます。

1-2 芸術～音の世界～

弥生時代に現れる銅鐸は、内部にさげた舌をゆらして当てることで、自然には聞くことのない金属的な大きな音を出します。浜松市角江遺跡からは、石製の舌のほかに銅鐸を模した土製品も出土しました。

弥生時代の遺跡からは、和琴の祖型とみられる箱形（槽づくり）の木製の琴も出土しています。



石製舌、銅鐸形土製品 (浜松市角江遺跡出土)

弥生時代のムラには、銅鐸の音が響きわたったり、琴の音が流れたり、うたや踊りの名人もいたかもしれません。



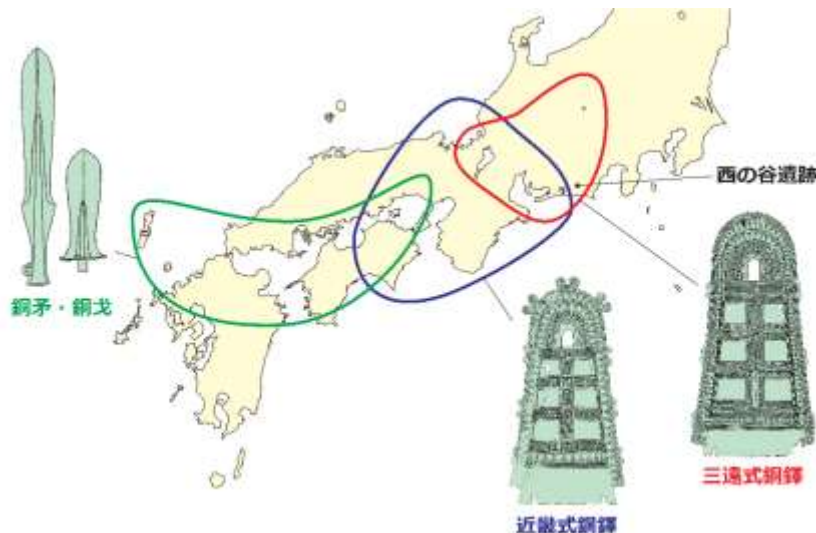
静岡市登呂遺跡の復元琴 (槽づくりの琴)

1-3 芸術～銅鐸～^{どうたく}

青銅器は弥生時代に朝鮮半島から伝えられた後、主に祭器（祭祀の道具）として広まります。銅鐸は音を鳴らす道具ですが、大型で装飾豊かなものになり、弥生時代後期（約2,000年前以降）には西日本から遠江（静岡県西部）西部や信濃（長野県）までの地域で用いられたことが明らかになっています。また、銅鐸は生活エリアの外や離れた丘陵地に埋納されることが多く、特定の個人の所有物ではなく、地域や集落の宝として扱われたと推測することができます。

弥生時代後期の銅鐸は、近畿地方を中心に分布する「近畿式銅鐸」と、三河・遠江地方（愛知県東部・静岡県西部）を中心に分布する「三遠式銅鐸」の二系統に分類されます。磐田市西の谷遺跡の敷地3号銅鐸（表紙写真の銅鐸）は、上部に丸い飾耳が付かないなどといった三遠式銅鐸の特徴を持っています。

磐田市敷地に所在する西の谷遺跡では、1890年（明治23）に山芋掘りをしていた人によって敷地1・2号銅鐸が発見されていました。2000年（平成12）、新東名高速道路の建設に先立って金属探知機などによる探査を行った結果、近くに埋納された状態の敷地3号銅鐸を発見し、発掘調査を実施しました。銅鐸はどこに埋納されたか予



弥生時代後期の青銅祭器の分布

測することが難しく、敷地3号銅鐸の調査は、数少ない埋納銅鐸の調査事例になります。

2 しずおかの弥生土器

弥生時代の土器は、貯蔵に用いた「壺」と煮炊きに用いた「甕」が多く、地域や時期によって食物を盛り付ける「高坏」や「鉢」などが加わりま

す。甕は、口が広く開き、装飾が少なく、煮炊きに用いたために黒いスなどが付着しています。壺は口が狭く、装飾文様を施したり、なめらかな器面に仕上げられたりしています。

静岡県内では、稲作が盛んに行われるようになる弥生時代中期中葉（約2,200年前）に壺と甕の組み合わせが定着します。しかし、壺の形や文様などは西寄りの地域と東寄りの地域とで異なる特徴を指摘することができます。

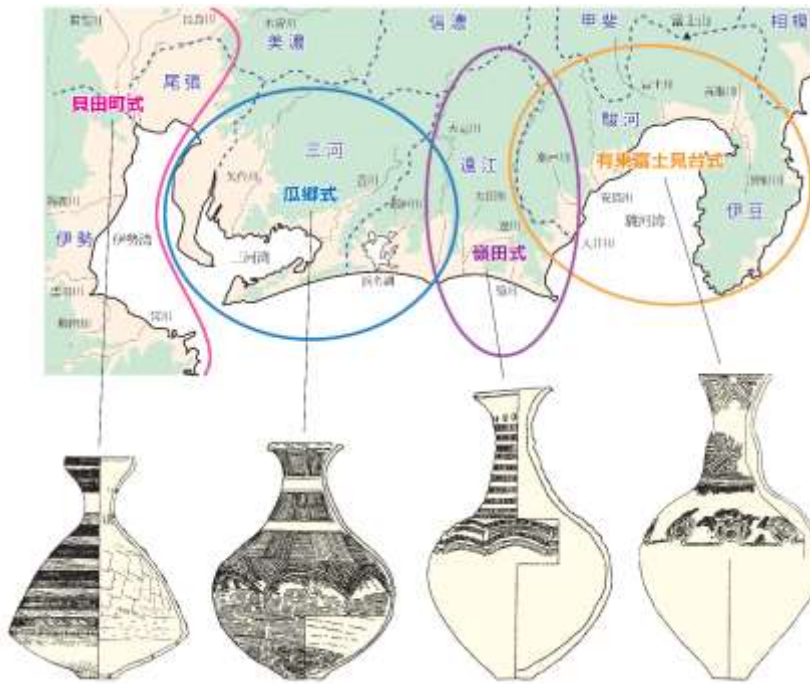
2-1 土器～土器棺～^{どきかん}

土器は日常生活で使われるほか、墓のお供えに用いられ

たり、地域によって棺に用いられる場合もあります。弥生時代中期後半以降、遠江（静岡県西部）では方形周溝墓などとともに土器棺も多く認められますが、駿河（静岡県中東部）ではほとんど土器棺の発見はありません。



銅鐸の発掘調査（磐田市西の谷遺跡）



鈴木敏博 2016「縄文・弥生時代の土器の歴史と文化」『縄文・弥生時代の社会と文化』



遠江西部の弥生土器
(浜松市将監名遺跡出土、展示は一部)

東海地方における弥生時代中期中葉の土器様式

とおとうみ つぼ

2-2 土器～遠江西部の壺～

遠江西部の浜松市角江遺跡や将監名遺跡から出土した弥生時代中期の壺は、いちじくのような下膨れの形の胴部に、櫛で細かい横線や縦・斜め線などの文様が施されるのが特徴です。

するが つぼ

2-3・4 土器～駿河の壺～

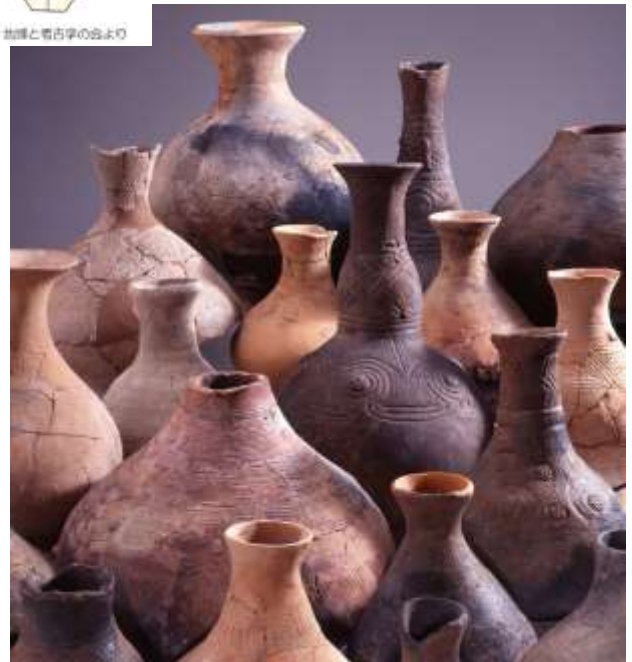
駿河の弥生時代中期中葉（約2,200年前）の壺は、細長い頸と上寄りが膨らむ胴部に、縄文とへら描きの太い線文が施されるのが特徴です。こうした特徴は東日本に広く認められます。

弥生時代中期後葉（約2,100年前）になると、駿河の壺も遠江西部の壺に近い特徴になりますが、胴部の膨らみは中位にある場合が多く、文様は櫛描きよりもへら描きが多用され、縄文を用いるものもあります。

たさい へんせん

2-5 土器～多彩なデザインの変遷～

弥生時代中期後葉から後期（約2,000年前以降）へと、壺には多彩なデザインの変遷が認められます。磐田市元島遺跡から出土した弥生時代中期末葉の壺は、口が細長く、黒く滑らかな器面に



駿河の壺（静岡市川合遺跡など出土、展示は一部）



赤と黒の壺
(磐田市元島遺跡出土)



多口壺
(静岡市長崎遺跡出土)

仕上げられたり、赤く塗られたりしているのが特徴的です。静岡市長崎遺跡の多口壺は小さな口が多数付く特異なデザインですが、壺全体の太めの形状などは弥生時代後期に現れる特徴です。

2-6 土器～高坏と木製高坏～

高坏には、土器のほかに木製品もあります。とくに、駿河では弥生土器としての高坏は極めてまれで、木製の高坏が出土しています。

静岡市川合遺跡の木製高坏は3分割の組み合わせ式です。木製高坏は一般的に広葉樹材でつくられますが、これは針葉樹のスギ材です。静岡平野では、9割以上の弥生時代の木製品がスギ材であり、高坏も含めてスギを多用する地域だったことが判明しています。

2-7 土器～古墳時代の駿河の壺～

近年の研究で注目されているのが、弥生時代の次の古墳時代になった頃の駿河の大型壺です。駿河の古墳時代前期（約1,800年前）の土器を「大廓式土器」と呼んでいます。特に大型の壺が特徴的であり、近畿地方から東北地方までの広い範囲で確認されています。国としてのまとまりが現れてくる新たな時代の地域間の交流を考える上で、この駿河の大型壺の性格が注目されています。



大廓式の大型壺
(沼津市植出遺跡出土)



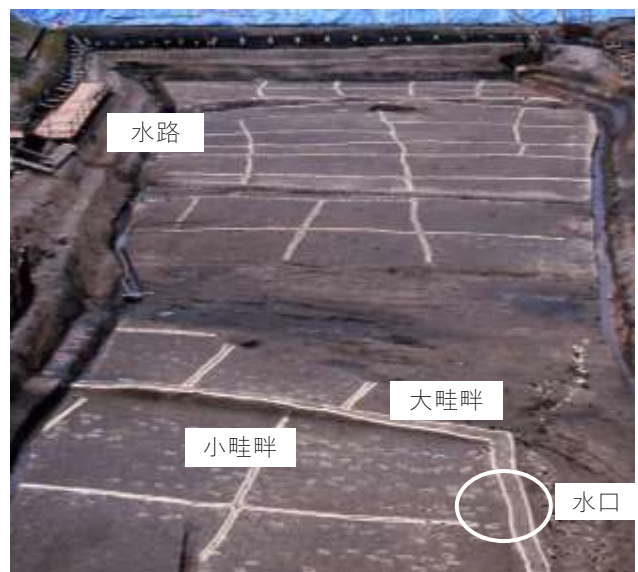
木製高坏、ねずみ返しなどの出土状況（静岡市川合遺跡）

3 木製品が語る豊かな農耕文化

静岡平野では、米作りが伝わると瞬く間に水田が広がっていきました。

昭和59年度から平成5年度までの静岡バイパス建設に伴う発掘調査で、当時の水田跡が良好な状態で見つかり、この地域の水田遺跡を研究するうえでの重要な成果を得ることができました。静岡市瀬名遺跡の水田跡では、大畦畔で大きな区画をつくってから、小畦畔でその中をさらに区切って小さな区画をつくっていました。畔には補強のために杭や矢板が打ち込まれ、畔の芯には柱や垂木などの建築材を再利用して埋め込まれていました。水田と集落を区切る溝や河川、人々の生活域からは土器や木製品が大量に出土しました。

なかでも水田技術とともに導入された農耕具は、鍬や鋤、田下駄、臼、杵、横槌、鎌などがあり、すべて木でつくられています。木製の農耕具は集落のなかでつくられていて、ときには未成品もあります。当時の人々がその用途に合った木材をつかっていることもわかっています。土を耕す鍬・鋤には硬いカシ材、臼にはクスノキ、杵にはヤブツバキ、そして槽や片口、建築材には軽くて加工のしやすいスギ材をつかっています。多くの木製品は豊富な木材資源があったことを物語っています。



弥生時代中期後葉の水田跡（静岡市瀬名遺跡）

3-1 木製品～農耕具：槽（田舟）～

展示の木製槽は、水田の畔の近くから出土しており、両端に2本の棒状把手をつくり出していることから、水田で稲束を運ぶためなどに使う田舟であったと推測できます。

樹種はスギであり、この槽をつくるためには単純に見積もって直径120cm以上のスギの大木が必要です。内面には幅が狭く細かい手斧で削った痕が無数に見えます。

3-2 木製品～農耕具：鍬と鋤～

鍬は地面に振り下ろして土を手前に掘り起こし、鋤は地面に差し込んで土をすくい返す道具であり、いずれも稲作には欠かせない道具です。静岡県では、生活域や水田域の遺跡から木製の鍬や鋤が発見されています。現代の鍬・鋤と違って、弥生時代の鍬や鋤は柄も刃先も木製でした。



木製槽(田舟)(藤枝市寺家前遺跡出土)



様々な木製農具(静岡県埋蔵文化財センター展示室、今回は一部(鋤)を展示)

弥生時代の鍬は、柄と刃先を別々につくり、組み合わせて使っていました。刃先には幅の広い「広鍬」、狭い「狭鍬」、「又鍬」などの種類があります。鋤には1枚の板からつくられた一本鋤もあります。

鍬・鋤の刃先はカシ材で作られています。カシは堅く強靱で、特にシラカシが好まれていたようです。一方、柄はしなやかなイヌマキの材が使われています。

3-3 木製品～農耕具：臼と杵～

弥生時代の臼と杵は、収穫した籾の付いたお米を脱穀するために使われていました。

浜松市角江遺跡では、ほぼ完全な形の臼が見つかりました。臼は幹の直径が60cmを超えるクスノキで作られています。クスノキは樟腦の香りがあり、天然の防虫効果があります。また、精油成分が含まれており抗菌の働きがあります。

弥生時代の杵は「堅杵」と呼ばれる形で、カシやツバキの木が使われました。展示の杵はヤブツ



脱穀の銅鐸絵画(桜ヶ丘5号銅鐸:神戸市博物館蔵より)

バキです。ツバキは真っ直ぐに成長するため、現代では野球の木製バットにも使われます。道具に使われる木材も適材適所なのです。



臼(浜松市角江遺跡出土、展示はレプリカ)

3-4 木製品～建築部材：ねずみ返し～

木製品には柱や階段といった建物の建築部材もあります。ねずみ返しは、害獣の侵入を防ぐために掘立柱建物の柱に取り付けられた建築部材です。下の写真のものは半分の部分ですが、中心に厚くつくり出した台状部と方形の孔が確認できます。表裏全面に幅約3cm前後の手斧で削った工具痕が残っていますが、孔の周りは工具痕が薄くなっています。この部分には柱が当たっていて、その圧力によって工具痕が潰れた可能性が指摘できます。



ねずみ返し(藤枝市寺家前遺跡出土)



復元建物のねずみ返し



静岡市登呂遺跡の復元建物(掘立柱建物)と復元住居



4 石の道具から鉄の道具へ

弥生時代は、青銅器や鉄器などの金属器の使用が開始された時代でもあります。青銅器や鉄器は朝鮮半島から九州地方にもたらされ、東へと広がりました。また、実用品として朝鮮半島からもたらされた後、やがて青銅器は銅鐸をはじめ主に祭祀の道具として用いられるようになりますが、鉄器は主に武器や工具・農耕具の実用品として広まります。

弥生時代の石斧にも多様な大きさや幅・厚さのものがあり、木の伐採から様々な加工にいたる技術と道具を持っていたことがわかります。しかし、弥生時代後期(約1,900年前)にかけて、静岡県内でも鉄を使った斧が普及してきました。この鉄斧を使うことで、石斧よりも飛躍的に早く大量に木材の加工をすることが可能になりました。弥生時代の終わり頃には石斧は姿を消します。また、農耕具にも鉄が使われるようになりました。



石斧、石鏃などの石器(静岡市川合遺跡出土、展示は一部)



鉄斧(静岡市川合遺跡出土、展示は一部)

4-1 鉄器～鎌の刃と柄～

藤枝市寺家前遺跡の水田跡から柄付きの鉄製鎌が出土しました。鎌刃の重量は44gほどあり、非常に良好な状態で残っています。

柄の樹種はグミ属です。芯持ち材が使われていますが、素材となる木の幹は直径6cm以上あったと思われます。グミ属はグミ科に属する落葉小高木で、集落の周辺に自生していた手近な材を使って作られたものでしょう。しかしグミ属を利用することは当遺跡でもこの鎌柄しかなく、一般的に見ても極めて稀なことです。

この柄付き鉄製鎌は水田域で発見され、形態もほぼ完形に近い状態で出土しています。当時は貴重品であろう鉄製鎌が水田域で見つかったことには、何か特別の意味を持つ可能性があります。



柄付き鉄製鎌
(藤枝市寺家前遺跡出土)

5 装いと武器の所有者

弥生時代の墓の跡からは装身具の玉や青銅の腕輪が出土することがありますが、その数は少なく、限られた者だけが身につけていたと推測できます。一方、それらが集落跡から出土する場合もあり、ガラスや青銅を溶かして加工する技術があったと考えられます。帯状の銅板を丸くした銅釧や銅環は、東日本で多く出土している形態のものであります。

極めてまれにですが、銅鏃や鉄剣といった武器が出土することもあります。浜松市椿野遺跡で出土しているような円孔のある銅鏃は、東海地方に分布が集中しています。静岡市長崎遺跡出土の剣の把は鹿角製であり、東日本に分布が限られる種類の把です。森町文殊堂遺跡の鉄剣にも同様の把が装着されたと考えられるものがあります。

鉄剣などの武器は朝鮮半島から伝わり、西日本

では集団的な戦いもはじまったと考えられています。静岡県域に弥生時代の戦いがあったとする根拠は発見されていませんが、装いや武器の所有によって、新たな技術や祭祀をけん引する者や他地域との交流や交渉を代表する者が現れていた可能性は指摘できます。

5-1 装身具～ガラス勾玉～

ガラス勾玉が出土した沼津市植出遺跡は、多くの住居跡などが発見された弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡です。

同じ丘陵に立地する植出北Ⅱ遺跡では、集落跡の外れからガラス勾玉の鋳范（鋳型）が4点出土しています。その鋳范は土製であり、勾玉形の凹みに溶かしたガラスを流し込んでガラス勾玉をつくることができたと考えられます。弥生時代のガラス勾玉鋳范は、主に北部九州を中心に西日本において見つかっており、本例は日本列島において最も東の事例であり、ガラス勾玉の鋳造技術が駿河にも伝わっていたことを示しています。



鉄剣、銅釧、銅鏃、管玉、ガラス小玉
(森町文殊堂遺跡出土、展示は一部)



ガラス勾玉
(沼津市植出遺跡出土)

ふじのくに文化財交流展示『しずおかの弥生世界』(山梨県開催) 展示品一覧

テーマ	出土市町・遺跡	展示品	点数	時期	所蔵	備考	
1	弥生時代の芸術	浜松市 角江遺跡	人面付土器(壺の口)	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 将監名遺跡	鳥形土器	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	シカの絵画土器片	3	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	銅鐸形土製品	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	石製舌	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 将監名遺跡	石製舌	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		磐田市 西の谷遺跡	銅鐸	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	静岡県指定文化財
2	しずおかの弥生土器	浜松市 角江遺跡	大型壺(土器棺)	1	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	甕(土器棺の蓋)	1	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	壺	2	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 将監名遺跡	壺	2	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		沼津市 西通北遺跡	壺	1	弥生時代中期中葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		三島市 中手乱遺跡	壺	1	弥生時代中期中葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 瀬名遺跡	壺	1	弥生時代中期中葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	壺	3	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 長崎遺跡	壺	2	弥生時代中期後葉	静岡県埋蔵文化財センター	
		磐田市 元島遺跡	壺	2	弥生時代中期末頃	静岡県埋蔵文化財センター	赤い壺と黒い壺
		静岡市 長崎遺跡	多口壺	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	高坏	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	木製高坏	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		沼津市 植出遺跡	大廓式の大型壺	1	古墳時代初頭	静岡県埋蔵文化財センター	
3	豊かな農耕文化 木製品が語る	藤枝市 寺家前遺跡	木製片口	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		藤枝市 寺家前遺跡	木製槽(田舟)	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	一木鋤	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	杵	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	臼	1	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	レプリカ
		藤枝市 寺家前遺跡	ねずみ返し	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
4	石の道具から 鉄の道具へ	静岡市 川合遺跡	磨製石斧	10	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	鉄斧	4	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 長崎遺跡	釣針	1	弥生時代後期か	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	磨製石鏃	6	弥生時代中期～後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 将監名遺跡	石剣	2	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 角江遺跡	石包丁	1	弥生時代中期～後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		藤枝市 寺家前遺跡	柄付の鎌	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	鉄製鎌と木製柄
5	装いと武器の所有者	浜松市 将監名遺跡	管玉	9	弥生時代中期後半	静岡県埋蔵文化財センター	
		森町 文殊堂遺跡	水晶製算盤玉	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		森町 文殊堂遺跡	ガラス小玉	28	弥生時代中期～後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		沼津市 植出遺跡	ガラス勾玉	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	銅釧	2	弥生時代中期～後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		静岡市 川合遺跡	銅環	3	弥生時代中期～後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		浜松市 椿野遺跡	銅鏃	6	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
		森町 文殊堂遺跡	鉄剣	2	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター	
静岡市 長崎遺跡	鹿角製の把	1	弥生時代後期	静岡県埋蔵文化財センター			